

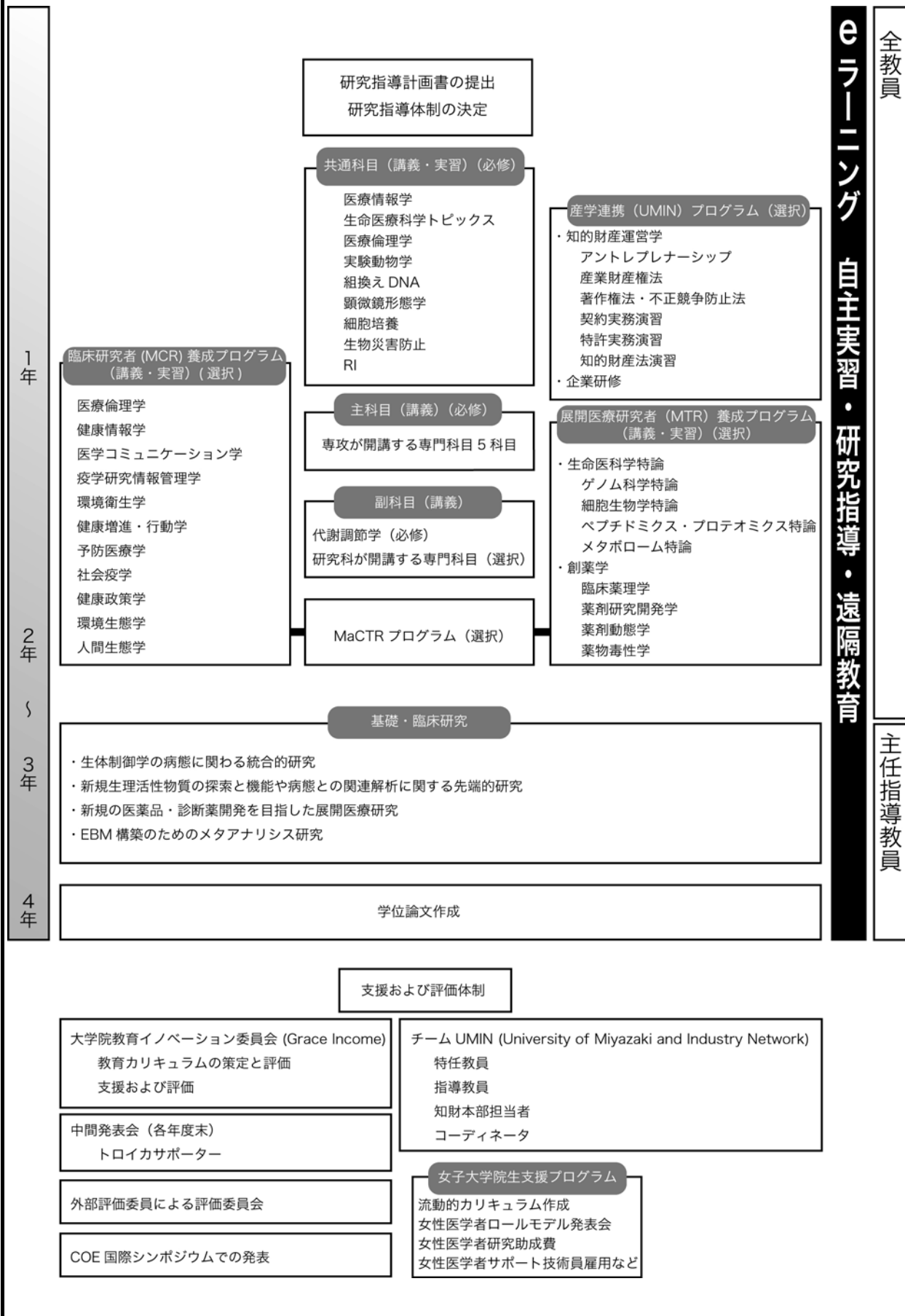
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	宮崎大学	整理番号	f007
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	臨床研究と展開医療を融合する教育拠点 (発見から臨床展開まで実体験できる研究者育成プロジェクト)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 基礎医学、境界医学、内科系臨床医学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (応用薬理学、病態医化学、医療社会学、内分泌学、内科学一般)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 医学系研究科・生体制御系専攻 [博士課程(一貫制)]	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 河南 洋	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>宮崎大学医学部の生理活性物質研究は、21世紀COEの第1回目に単科医科大学として唯一採択されるなど、本学将来構想実現の推進力と位置づけている。生体制御系専攻は、本学COEプログラム「生理活性ペプチドと生体システムの制御」の中核を形成し、若手研究者育成における最大の基盤組織である。大学院生や院卒業生を中心に、新規の生理活性ペプチドを自分達の手で発見し、その機能や病態との関連を解析して、治療薬にまで展開することをテーマに、確固たる実績を挙げてきた。この過程で、シーズの発見から臨床応用を展望できる「展開医療研究者(Master of Translational Research: MTR)養成プログラム」を構築し、基礎と臨床および企業との連携により、多数の特許出願や臨床試験の開始なども実体験できるようにしてきた。今回の取組は、展開医療とヒトや集団を単位とした幅広い臨床研究を大学院教育の中で、組織的に学習できるように、「Master of Clinical Research and Translational Research: MaCTRプログラム」の新規導入を第1の主眼とする。研究の知財化や起業化を研修できるシステム(UMIN: University of Miyazaki and Industry Network)を組織化し、大学院時代から社会との連携を学習する場を提供することが第2の主眼である。本専攻卒業生の中には、各学会賞受賞などの優れた女性臨床研究者がいる。女子院生が多い現状を踏まえ、「女性研究者支援プログラム」を実質化し、研究意欲に溢れた女子院生を育成することが第3の主眼である。上記3つの取組は、中教審大学院部会報告会の主旨とも合致している。本学としても、中期計画の柱の一つとして、重点的な支援を行う。これらの取組は、平成18年に本学附属病院に設置予定の展開医療センターの活動と連動している。</p>			

機 関 名	宮崎大学	整理番号	f007
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>本学は昭和49年に国立単科医科大学として開設以来、基礎と臨床が連携した大学院コースを策定し、教育実績を挙げてきた。平成12年には、生体制御系を系統的に履習するユニットとして、基礎と臨床の12教室を横断する7つのコースを整備した。平成15年度に行った医科大学(宮崎医科大学)と地方国立大学(宮崎大学)の統合のメリットを生かし、宮崎大学農学部獣医学科と連携した大学院指導が可能になったことも、大学院教育の機能的展開につながった。平成17年度から文部科学省特別推進事業として「生理活性物質の構造・機能解析のための学部横断的研究の推進」を進め、大学院の学部横断的研究がより一層活性化されている。学生の需要も多く、充足率は100%を超えている。夜間履修制度やシラバスのインターネット利用など、機動的な学習環境を整備した。女子大学院生の学習環境を整備し、出産や育児のための長期履修制度も設けた。院生にTAを、研究成果を挙げた院生にはさらにRAを支給し、経済的に支援している。COEの一部予算を若手研究者育成のための競争的研究費に充て、毎年10名の院生に1人100万円を助成してきた。また、他学部卒の院生の学習効率が上がるように、合同ゼミや研修制度を設けてきた。</p> <p>大学院生が行うEBM研究や展開医療に必要な知的財産運営学や企業研修は、主任指導教員に任せることが多かったことから、大学院全体での系統だった講義と実習システムの構築が望まれている。本専攻の1/4を女子大学院生が占めるが、出産前後の研究支援もさらなる改善が望まれている。</p> <p>本学の特色であるCOEを中心とした若手研究者育成システムを生かしつつ、これらの課題を解決して、より一層の魅力ある大学院教育を目指したい。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>新規生理活性物質の探索、機能解析、臨床応用を中心課題として、臨床医学研究と展開医療研究を目指す若手臨床研究医を育成するための高等教育システムの組織化と、医学部創出成果の社会への還元に関する学習および女子大学院生の積極的な支援のために、以下の取組を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="159 1377 1436 1556">1. <u>臨床医学研究者(MCR)と展開医療研究者(MTR)の育成のためのプログラムの導入</u>:医療倫理、予防医療、健康政策、疫学情報処理、医療統計など、臨床医学研究に対応したプログラムとペプチドミクス、知的財産運営や創薬などを系統的に学習するプログラムを新設する。両プログラムを有機的に統合したMaCTRプログラムを設置する。 <li data-bbox="159 1568 1436 1702">2. <u>産学連携学コースの導入</u>:本学での今までのペプチド創薬の実績を生かし、医薬品開発における産業界との連携を推進するための方法論のカリキュラム化や特任教員の採用、企業からの人材派遣および企業研究所研修などを進める。 <li data-bbox="159 1713 1436 1848">3. <u>女子大学院生の支援</u>:従来行ってきた流動的カリキュラム作成、女性医学者ロールモデル発表会、女子大学院生への研究助成費やサポート技術員雇用などを組織化する。女子大学院生や研究者が毎日24時間利用できる学園保育所を医学部敷地内に平成19年に開設し、学習環境もさらに充実する。 			

6. 履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- これまでのペプチド研究の実績に基づいて、大学の特色を生かした臨床研究と展開医療を融合する教育という構想は評価できる。地域連携、臨床研究者の養成プログラムや女性研究者のロールモデルも牽引的な意味で特色となっている。
- 既に採択されている「21世紀COEプログラム」の成果を人材育成に発展させる計画であり、昨年の申請で不十分であった点を明確に改善した取組は評価でき、成果を期待する。
- このプログラムで学生が十分に学習できる内容に精選し、適切な評価を行って将来への展望が見える工夫も必要である。